
IS インフィニット・ストラトス 蒼い流星

古川刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS インフィニット・ストラトス 蒼い流星

【Nコード】

N0683Y

【作者名】

古川刹那

【あらすじ】

本来は女性にしか扱うことができない兵器インフィニット・ストラトス通称IS。しかし、何故かISを起動させることができた織斑一夏そのことがきっかけで彼は女性しかいないIS学園に行くことになった。だが、そのことがニュースで世界中に伝えられたことによってある研究所に住んでいた少年たちもIS学園に通うことになり新たな出会いと生活が始まった。

プロローグ

某国にある秘密の研究所

「あとは炒めるだけで完成か。」

その時僕は、夕飯の準備をしていた。別に僕は、一人暮らししているわけではない、ただ一緒に暮らしている姉さんと親友たちよりも料理が好きなだけだ。ちょうど炒め初めたころ通信が入った。

「まーくん食事の準備できた〜」

「姉さんごめん、今炒めている最中だからもう少し時間がかかるよ。」

「そう、それじゃそれまでもう少し研究してるからできたら連絡してね。」

「うんわかった。じゃ連絡するよ。」

そこで僕はあることにきずいた。

「そういえば、やけに静かだけどあいつらは今何してるの？」

「今準備しているよ。」

「準備ってまた違う国に研究所移すの？」

「違うよ。二人にはIS学園に行ってもらうからだよ、まーくんも一緒に。」

「へーそうなんだ。ってIS学園は女子高だよ、しかも何で僕も一緒にいくことになってるんだよ。」

「そう、怒らないでよ理由はニュースを見てみなよ」

そう言われたからテレビの電源を入れてニュースを見て見ると久しぶりにみる顔が映っていた。

主人公紹介

名前：星川 将司

性格：自由奔放

趣味：読書

好きな食べ物：カレー

場所：静かなところ

こと：風を感じることに

言葉：はやきこと風の如く

身長：170cm前後

設定：常に自由奔放に動くが面倒見がよい。髪と瞳の色は黒。一夏と冪とは幼なじみ。6年前に両親と買い物に行くとき事故が起こり、彼だけが奇跡的に無傷で助かったが両親が事故死したことが原因で心を閉ざし、束が保護責任者になり少しずつ元気になっていたが束が失踪した時に彼も同時に失踪していた。事故のあとよく直感が当たるようになり、的中率が80%をほこる。制服は、行事の時は普通の制服を来て通常は上着の袖が無くフードが付いている改造制服を着ている。長袖の服はあまり着ず、寒い時の長袖の上着を着用する。

搭乗IS：流星

第？世代

GNコアドライブシステム

基本的にはガンダムOOと同じですが通信を妨害することができず、コアによって放出する粒子の色が異なり、シールドエネルギーは従来のISと同じだが武器や推進力はGNドライブからエネルギーが使用される。しかし、従来のISと異なりファーストシフトが完了するまでかなりの時間が必要となる。

機体と武装はガンダム〇〇のガンダムエクシアとだいたい同じでヘッドギアは、白式と同じでGNドライブから放出される粒子の色は青色をしている。武装は、GNビームサーベルは両肩に一本ずつとGNダガーは腰部に二本あり、それ以外の武器はコールする必要があるがGNソードとGNシールドは、展開時に自動的に装備される。
武装：GNソード

GNショートブレイド

GN ロングブレイド

GNビームサーベル

GNビームダガー

GNバルカン

GNダガー

GNシールド

主人公紹介（後書き）

キャラの紹介は、まだ主人公の設定しかちゃんと決めてませんが他のオリキャラの設定を早く決めて早く紹介文を投稿したいと思っています。

第1話 再会

Side:一夏

視線がきつい。

何で最前列の真ん中なんだ嫌でも注目されるじゃないか、それに久しぶりに再会した幼なじみの篠乃之^{しののほづき}箒に救いの視線を送ったら窓の外に顔そらされるは俺って嫌われているのか？そういえばあいつと別れてから箒と同じで6年は連絡がとれてないけどちゃんとしているのかな？

「くん。織斑一夏くん っ」

「は、はい!？」

「あつ、あの、お、大声出しちゃってごめんなさい。お、怒ってるかな？」

「すいません俺が考え事をしてたのが悪いんですから先生は気にしないでください。」

「そ、そうですか、そしたら自己紹介してもらってかまいませんか？」

そのあと俺は自己紹介をしたけど、ちゃんと自己紹介しろと今まで職業不明だった姉の織斑千冬に頭を叩かれた、女子たちの大きな声を聞くことになり、いろいろ疲れた自己紹介になったなと思いつながらクラス中を見渡すと空席があることにきずいた。

「千冬姉後ろの「織斑先生と呼べ」・・・

はい、わかりました。」

頭がすごく痛い、間違っただけで頭を叩くなんて体罰なんじゃないか？てか次からは気をつけてかまいと。

「織斑先生後ろの空席があるんですけど、入学初日から誰か休んでいるんですか？」

俺がちょうど反省をしているころクラスの誰かが千冬姉に質問し

ていた。

「そのことは、後で説明するつもりだったがまあいいだろう。後の4つの空席が今、入試を受けている連中の席だ。」

「千・・・織斑先生何で入学初日から試験を受けるなんて何かあったのですか？」

「理由は、昨日急に連絡がきたのともうじきニュースで世界中に情報が伝えられるがそろそろ来るころだろう。」

千冬姉がそう言ったあと廊下から誰かが走ってくる音が聞こえてきて、ドアの前で立ち止まったようだ。

「来たようか、入ってこい。」

「あ、はい。わかりました。」

今ここじゃ聞くことがないと思っていた男の声が聞こえて一瞬嬉しさのあまり大声を出しかけたがここはなんとか声を出すことはなかったけど、どこかで聞いた覚えがあるような声だった。

「失礼します。今日から皆さんと一緒に学園生活を送ることになりました星川将司ほしかわまさしと言います。どうかよろしくお願いします。」

6年間、消息不明だった親友がそこにいた。

第1話 再会（後書き）

刹那です、第1話を投稿しました。

初めて書いたので原作キャラの性格が違ったり、誤字脱字がある可能性がありますができる限りないように頑張っていきたいと思っています。

次は他のオリキャラの紹介文を投稿する予定です。

第2話 初登校（前書き）

前回は次は紹介してないオリキャラの紹介する予定でしたがキャラの紹介は1人ずつ後書きで紹介して行くことになりました。ほんとすいません。

第2話 初登校

今、僕たち二人は走っている。

とある事情で今日からIS学園に行くことになり、今教室に向かつて急いでいた。

本来は走って行く必要も今日登校する必要はなかったの。ただ入試の日程が僕たちはとある事情で他の人たちとは違って、昨日と今日が試験日程だったが僕たちはそろって筆記試験があまりにも簡単すぎて1日予定のテストを休憩無しの4時間ぐらいで終わらし午後から僕たちは時間が余ったため急遽、実技試験を受けることになりテストが1日で終わった。そして次の日つまり今日は休みだと思いうつくりホテルで寝ていたのだが、「今日から学園に來い」となぜか今日の朝から電話がきた。つか何で昨日に電話してくれないんだよ。遅刻確定じゃないかと思いつつ走り続けている。

「おい、将司どうした早くしないと自己紹介の時間に間に合わないぞ。」

と、隣で並走している親友の神童 しんどう 一哉が話しかけてきた。

「一哉おまえちょっと待てよ。後ろの二人まだ追いついてきてないけど。」

「昨日徹夜してまで二人そろってゲームして遊んでいたやつが悪い。」

「ま、そうだけれど校舎を見えてきたし少しぐらいペースを落とす……」

てもいいんじゃないか？といいかけたが買ったばかりの携帯にメールが届いた。

「メールはあいつらからか？」

「僕たちが乗った電車の次の次の電車に乗って行くから遅れるって伝えといてって」

「……さてペース上げるか？」

「……そうしようか。」

そして僕たちはさっきよりも走るペースを上げて行った。

―数分後―

「やっと教室に着いたか。」

「久しぶりにけっこう走ったな将司。」

ドアの前で息を整えた後、ドアをノックした。

「来たようか、入ってこい。」

「先に入っているぞ。昔の親友に会うのを楽しみにしていたのだろっ。」

「サンキュー恩にきる。」

「あ、はい。わかりました。」

「先に入っているぞ。昔の親友に会うのを楽しみにしていたのだろっ。」

「サンキュー恩にきる。」

そしてドアに手をかけて開けドアを開けた。

「失礼します。初めまして今日から皆さんと一緒に学園生活を送ることにになりました星川将司ほしかわまさしと言います。どうかよろしくお願いします。」

さて自己紹介も終わったし、久しぶりに会う一夏たちに挨拶をしようと考えていたら…

「……きゃゝ二人目の男の子……。」

人って集まるところまで大きい声が出せるとは考えてなかったな…

「お、おまえ本当にま、将司なのか？今まで何で連絡してくれなかったんだよ。」

あ、一夏だそんな前にいるとは思わなかったな。

「なに言ってるんだよ。僕は正真正銘おまえの親友でありおまえと

第の幼なじみの星川将司だよ。まあ、詳しいことはまた後で話すよ。それよりもまずは……」

そう言っ僕はドアのところから窓側の列の一番後ろの空席に向かった。

「初めまして俺の名前は、神童一哉だ。できたら下の名前で呼んでほしい。ついでに言つと今ここにいない後の二人は男で遅れてくるから俺や将司に質問をしたりするのは二人にが到着してからにしてほしい。これからよろしく頼む。」

そう言っ一哉は僕の隣に來たが、それまでに僕の時以上の歓声が響いてうるさかった。

第2話 初登校（後書き）

ーキャラ紹介ー

神童一哉 しんどうかずや

性格：冷静

趣味：ギター演奏

髪の色：黒

身長：約170cm

好きなもの：ギター

場所：涼しいところ

言葉：しずかなること林の如く

設定：常に冷静に物事に対処する。あまり感情を出すことも少ないが苛めなどの暴力ごとに関しては、すぐに怒り相手を説教する。将司とは、将司が世界中を旅している時に偶然会い意気投合しともに旅をした。空間認識力が高く後ろからの攻撃などにすぐに対処することが可能である。

2話を投稿できました。ちゅうと半端な終わりですが、そこは勘弁してください。

次回の投稿は6日中を予定しています。内容はまだ出てきてない二人を出すことが確定しております。

第3話 遅れた二人（前書き）

今回は未登場の二人がでてきます。

第3話 遅れた二人

一哉の自己紹介が終わり、他のクラスメイトの人たちの自己紹介が一通り終わり休み時間が始まり、廊下に他のクラスの人たちが僕たち目当てだろう人たちで埋め尽くされていてほんと迷惑だろうと考えていたら、一夏が箒に連れ出されてどこかにいつていた。

「将司、あの一夏ってやつどうして連れていかれたんだろうな？」

「あゝそれは、僕も含めて一夏と箒は幼なじみなんだ。たぶん久しぶり会ったから何か話したいんじゃない。」

「それだとしてどうしておまえに声をかけないんだ、それとあの名字あの人妹か？」

その質問の答えを周りに聞かれないので一哉に近づいて小声で話した。

「・・・あまり周りには、言わないでよ。一哉おまえの気付いたとおり、箒はあの人妹だよ。一夏だけを呼んだのは一夏のことが好きだからだよ。」

「そうか、わかった。人の恋路を邪魔するわけにはいかないじやたな。そういえばあの二人から・・・」

一哉がしゃべろうとしたときにちょうどチャイムがなった。

「確か次から授業だったな。さて準備するか。」

「そうだね、けどよく考えたらあの二人が徹夜で遊ぶことなんかするはずないと思うんだけど。」

「確かにそうだな、じゃあ何でだろうな？」

「たぶん聞いたらわかるだろうし、もうすぐ来る気がするよ。」

「そうか、おまえの直感信じてもいいからな。」

話しが終わった後、千冬さんと山田先生が来て授業が始まった。

ー10分後ー

廊下から足音が聞こえてきたらどうやらこの教室の前で止まったようだからあの二人が着たようだ。

「遅れてすみません。今日から皆さんと一緒に学園生活を過ごすことになりました、ヴァン・ハレヴィです。よろしくお願いします。」

ー

「初日から遅れてすまない。俺の名前は暁剣あかつきさねです。。今日はヴァンと俺は学園から登校は、明日からでいいと初め言われていたので俺達の専用機のフルメンテで夜遅くまで作業していたので今日からここに登校することになったとき準備ができてなかったため今日は遅刻してしまいました。明日からは今日みたいに遅刻しないようにしますので皆さんこれからよろしくお願いいたします。」

「おい、剣の馬鹿、俺たちが専用機をもっていることはまだ秘密にする必要があったのに何でしゃべるんだよ。」

「あ、ごめん忘れてた。」

説明するの面倒だな

「ハーイ質問です。何で一哉君たちは、専用機をもっているんですか？」

やっぱり聞いて来るか。どう答えたらいいか・・・

「すまない。そのことは、他言無用になっていて誰にも言うてはいけないんだすまない。」

一哉ナイスフォローこれでなんとかなったはず

「おまえたち静かにしろ。今は授業中だ続きは休み時間にしろ、ハレヴィ、暁とりあえず空いている席に着けこれから授業を再開する。」

それから授業が再開され、一夏が馬鹿やって怒られるは、休み時間になると質問攻めにあうわけで1日目の学校が終わった。

第3話 遅れた二人（後書き）

ヴァン・ハレヴィ

身長：約167cm

性格：明るい

趣味：写真撮影

髪、瞳の色：金髪、碧眼

好きなこと：誰かと話すこと

もの：写真

設定：争い事を好まなず何かあったら話し合いで解決することをモットーにしている。過去とある理由で1人になることを嫌い、よく誰かと一緒にいることが多い。よく写真を撮影してどこに誰と一緒にいたかを忘れないようにしている。射撃能力においては四人の中では誰にも負けない。

暁 剣

身長：約169cm

性格：勇猛邁進

趣味：鍛練

好きなこと：修行

もの：修行道具

設定：とある理由で常に体を鍛えているが自分にちょうどいいぐあいに筋力があるように鍛えている。隠し事が苦手で秘密にすることもあつさりと黙っていることも忘れてしゃべってしまうことがある。

刹那です。更新は基本週一で更新します。

四人の出番の割合が違いかも知れませんが出来る限りの同じにしていこうとかがえています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0683y/>

IS インフィニット・ストラトス 蒼い流星

2011年11月17日21時28分発行